

あかるく かしこく たくましく

令和5年10月4日 No. 28 文責：校長 佐野紳二

SDGsについて考えてみましょう⑤ 「ありがとう」の気持ちで大切に

運動会特集で1回お休みをいただきましたが、No.32に続いて、SDGsの17の目標を達成するために私たちができることについて一緒に考えてみたいと思います。第2回目のキーワードは「大切にする」です。一人一人のちょっとした心遣いが集まることで、私たちの未来はきっと住みよい社会となっていくはずですよ。

今回の参考文献 わたしもできる！世界とつながるSDGsアクション ②「ありがとう」の気持ちで大切に
著者：原琴乃 出版社：汐文社

学びの機会を大切にしよう（4質の高い教育をみんなに 8働きがいも経済成長も）

世界には、貧しさの中で小学生になる年齢になっても学校に通えない子どもや、学校に入っても通い続けられない子どもがたくさんいます。（2019年現在、約6700万人でその多くがアフリカ・アジアの子どもたちです）働いたり、弟や妹の世話をしたりしなければならないからです。また、女子トイレなどの学校の設備が整っていないことや学校が遠すぎることを理由に、卒業まで通いきれないという子どももいます。日本では当たり前の「学校に通う」ということが、国によっては当たり前ではないことを知っておいてください。



マークに注目して買い物をしよう（12つくる責任つかう責任 13気候変動に具体的な対策を）



「エシカルマーク」という言葉を聞いたことがありますか。これは環境にやさしい材料を使い、作る人の人権に配慮され、社会や地域の持続に貢献する商品に付けられるマークのことで、みなさんが一番よく知っているのは「エコマーク」ではないかと思います。その他にも、FSC認証マークや有機JASマークなど、いくつものマークがあります。環境のことを考えて作られている商品や、作る人を大切にしている商品（子どもや障がいのある人が安い給料で働かされて作った製品ではないもの）を選ぶことが、よりよい未来につながっていきます。

植物を大切に、育てよう（13気候変動に具体的な対策を 15陸の豊かさを守ろう）

1990年から2020年までの30年間で、世界中の森林の面積は日本の国土の約5倍にあたる1億7800万ヘクタール減ってしまいました。森林には二酸化炭素を酸素に変えてくれる大切な働きがあります。また、多くの生き物が暮らしている場所でもあります。木は木材や紙の原料となり、私たちの暮らしを支えてくれています。森林を守ることは、私たち人間だけでなく多くの生き物の命を守ることに繋がります。



「心のバリアフリー」を広げよう

(10人や国の不平等をなくそう 17 パートナーシップで目標を達成しよう)



職場や学校、お店など、いろいろな場所で障がいのある人は不便さを感じたり、「とりのこされた」ような感じがしたりすることがあります。障がいがあっても、お年寄りになって体が不自由になっても、みんなが安心して生活することができるように、私たちの暮らしの中にあるさまざまな障壁(バリア)をなくしていくことが大切です。バリアフリーやユニバーサルデザインについて、ぜひ皆さんも調べてみてください。

地域行事に参加し、伝統を守ろう (8働きがいも経済成長も 11住み続けられるまちづくりを)

ちょっと前から、生活するのに便利な都市で生活する人が増えています。その一方で、地方では住む人が少なくなったり、お年寄りだけが住み、若い人や子どもの数が減ってきたりしていることが問題になっています。それぞれの地域に昔から伝わる食や工芸、芸能、祭事などの伝統文化も、受け継ぐ人がいないために、なくなってしまうのではないかと心配されています。みなさんが住んでいる楕円形地区にも、貴重な伝統文化がたくさん残されています。ぜひ、それらを大切にしていってほしいと思います。



「未来の仕事」を考え、そのために学ぼう

(5ジェンダー平等を実現しよう 8働きがいも経済成長も)



世界の中にはとても厳しい条件(危険・環境がよくない・賃金がとても安い・休みが取れない…等)で長時間働かなければならない人がたくさんいます。働くことと子育てや介護を両立させることが難しく、仕事をやめなければならない人もいます。また、AI(人工知能)やICT(情報通信技術)の進歩により、皆さんが大人になったときの働き方は、今とは大きく違っている可能性があります。「働く」ということについて、今のうちから考えていくようにしましょう。

「もったいない」といえば

No.26で、ワンガリ・マータイさんの「MOTTAINAI」を紹介しましたが、私たち日本人に(特に子どもたちに)馴染み深いのは、真珠まりこさん作の「もったいないばあさん」シリーズでしょうか。

「もったいなーい」といつてくるよ」と言いながらどこからともなく現れ、昔ながらの知恵を使って、どうしたらもったいなくなるかを教えてくれる「もったいないばあさん」が主人公のこの絵本は、作者の真珠さんが、自分の4歳になる息子さんがご飯を食べ残したときに、「もったいないから全部食べようね」と話をした後、「もったいないってどういう意味?」と聞かれ、うまく説明ができなかった経験からうまれたお話なのだそうです。

対訳版も含め、全17作が刊行されている「もったいないばあさん」シリーズは、親子でSDGsについて考えるきっかけとしてはとてもよい本だと思います。まだ読んでことがない方はぜひ一度、親子で読んでみてください。

